



思考への探求

校内研究だより

令和7年6月27日

No.1

— 挑む力 —

学ぶこと・考えることを楽しむ

全教科で育てる「言葉の力」

～失敗をおそれず 自ら学びを進める子どもの育成～

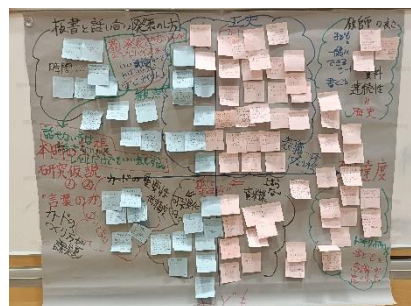
2025年6月27日、本年度第1回校内研究として、神嶋凌介教諭(6年1組担任)による社会科の公開授業が実施された。今年度の研究テーマは「学ぶこと・考えることを楽しむ全教科で育てる『言葉の力』～失敗を恐れず自ら学びを進める子どもの育成～」である。

「言葉の力」を育む授業実践

今回の公開授業では、社会科の「天下統一」をテーマに、カードゲーム形式のワークシートが活用された。普段あまり発言しない子どもたちも積極的に議論に参加し、歴史上の人物の取り組みを整理し、自分の考えを表現する活動を通して、天下統一への理解を深めた。神嶋教諭は、子どもたちが「人に話したい気持ちがいつもより強かった」と述べ、子どもたちの主体的な学びへの関わりへの手ごたえが明確に示された。



研究協議会での評価と課題



研究協議会では、振り返りシートを扇形にまとめる活動が、子どもの学びの連続性と広がりを見視的に表現していると高く評価された。子どもたちが根拠資料を用いて説明する姿からは知識の定着と自信がうかがえ、議論を繰り返すことで学習方法が洗練されていく様子も確認された。「ドキリレベルの『ワクワク感』が学びを促進する」という意見も出され、子どもの情意に訴えかける教育の重要性が示唆された。一方で、議論の構造化を促すためのカード間の相関関係の可視化や学習問題解決方策の提示、また「聞く」ことの明確化や「ドキリポイント」の根拠の可視化といった改善点も指摘された。特に、授業の主眼が「重要度を定める」こと以上に「調べる力や考える力を伸ばす」ことであったならば、その点が

明確になるような問いかけや活動の工夫が求められた。

筑波大学附属小学校 鈴木遼輔先生からの御指導

筑波大学附属小学校の鈴木遼輔先生からは、「社会の授業デザイン」という視点から貴重な御指導があった。特に、「今回の授業は議論になっていたのか、交流と議論は分けて認識すべき」という御指摘は重要であった。子どもが知識を「獲得していく」プロセスを重視し、子どもから生まれた疑問を安易に修正せず、議論を通して問いを醸成していくことの重要性が強調された。

今後の展望

今回の授業実践と研究協議会、そして鈴木先生の指導を通じて、子どもの「言葉の力」を育むためには、単なる知識の伝達に留まらず、子どもの情意に訴えかけ、自ら問いを発し、根拠に基づいた議論を深めていくような授業デザインが不可欠であることが再認識された。これらの貴重な学びを次回の授業に活かしていくことが期待される。